

1 基本方針の策定について

(基本理念)

いじめは、いじめを受けた生徒の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長及び人格の形成に重大な影響を与えるのみならず、その生命又は身体に重大な危険を生じさせる恐れがある。いじめは人間として絶対に許されないという強い認識に立ち、すべての生徒がいじめを行わず、及び他の生徒に対して行われるいじめを認識しながらこれを放置することがないように、いじめの防止等のための対策を行う。

(いじめの禁止)

生徒は、いじめを絶対に行ってはならない。

(学校及び職員の責務)

いじめ未然防止のため、学校の教育活動全体を通じて、全ての生徒に対して「いじめは決して許されない」という指導を徹底するとともに、保護者をはじめ関係機関と適切に連携を図る。

2 いじめへの対応について

(1) いじめの未然防止

- ア 学校の最重点目標の一つに「いじめを許さない学校」を掲げ、いじめを見逃ごさないことに学校全体で組織的に取り組む。
- イ 豊かな情操や道徳心を培い、心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、全ての教育活動を通じた道徳教育及び体験活動等の充実を図る。
- ウ 保護者並びに地域住民その他の関係者との連携を図りつつ、いじめ防止に資する生徒が自主的に行う生徒会活動に対する支援を行う。
- エ いじめ防止の重要性に関する理解を深めるための啓発その他必要な措置として、人権意見発表会等を実施する。

(2) いじめの早期発見

ア いじめ調査等

- ① 生徒対象いじめアンケート調査 年2回(5月、10月)
- ② 教育相談を通じた学級担任による生徒からの聞き取り調査
年2回(6月・11月)

イ いじめ相談体制

生徒及び保護者がいじめに係る相談を行うことができるよう次のとおり相談体制の整備を行う。

- ① スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの活用
- ② いじめ相談窓口の設置

ウ いじめの防止等のための教職員の資質の向上

いじめの防止等のための対策に関する研修を年間計画に位置づけて実施し、いじめの防止等に関する教職員の資質向上を図る。

(3) インターネットを通じて行われるいじめに対する対策

生徒及び保護者が、発信された情報の高度の流通性、発信者の匿名性、その他のインターネットを通じて送信される情報の特性を踏まえて、インターネットを通じて行われるいじめを防止し及び効果的に対処できるように、必要な啓発活動として、情報モラル研修会等を行う。

(4) いじめ防止等の対応と組織について

ア いじめの防止等の対策のための組織「生徒指導委員会」の設置

いじめの防止等を実効的に行うため、次の機能を担う「生徒指導委員会」を設置する。

<構成員>

校長、教頭、生徒指導担当教員、学年生徒指導担当、養護教諭、不登校指導担当、
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー

<活動>

- ① いじめの早期発見に関すること(アンケート調査、教育相談等)
- ② いじめ防止に関すること。
- ③ いじめ事案に対する対応に関すること。
- ④ いじめが心身に及ぼす影響その他のいじめの問題に関する生徒の理解を深めること。

<開催>

週1回を定例会とし、いじめ事案発生時は緊急開催とする。

イ いじめに対する措置

- ① いじめに係る相談を受けた場合は、すみやかに事実の有無の確認を行う。
- ② いじめの事実が確認された場合は、いじめをやめさせ、その再発を防止するため、いじめを受けた生徒・保護者に対する支援と、いじめを行った生徒への指導とその保護者への助言を継続的に行う。
- ③ 「いじめを受けた生徒が安心して教育を受けられるための必要があると認められるときは、保護者と連携を図りながら、一定期間、別室等において学習を行わせるなどの措置を講ずる。
- ④ いじめの関係者間における争いを生じさせないよう、いじめの事案に係る情報を関係保護者と共有するための必要な措置を講ずる。
- ⑤ 犯罪行為として取り扱われるべきいじめについては、教育委員会及び三木市いじめ防止センター、三木警察署等と連携して対処する。

3 重大事案への対処

生命・心身又は財産に重大な被害が生じた疑いや、相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがある場合は、次の対処を行う。

(ア) 重大事態が発生した旨を、三木市教育委員会に速やかに報告する。

(イ) 教育委員会と協議の上、当該事案に対処する組織を設置する。

(ウ) 上記組織を中心として、事実関係を明確にするための調査を実施する。

(エ) 上記調査結果については、いじめを受けた生徒・保護者に対し、事実関係その他の必要な情報を適切に提供する。

4 学校評価における留意事項

いじめを隠蔽せずいじめの実態把握及びいじめに対する措置を適切に行うため、次の2点を学校評価の項目に加え、適正に自校の取組を評価する。

(ア) いじめの早期発見、早期解決に関する取組に関すること。

(イ) いじめの再発を防止するための取組に関すること。

5 いじめの未然防止、早期発見、対応に向けた取組と年間指導計画

《年間指導計画》

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
職員会議	職員会議 ※1 生徒指導委員会 いじめ対応チーム会議 ・指導方針 ・指導計画	職員研修①	緊急対応会議の開催、事案発生時 職員・保護者向け 研修会 (ネットモラル関係等)		※3 職員研修②	いじめ対応チーム会議 ・情報共有 ・2、3学期の計画
未然防止に向けた取組	人権教育の年間計画 道徳教育の年間計画	学級・学年づくり ソーシャルスキル トレーニングの実施 情報モラル教室 (ネット関係等)				
早期発見に向けた取組		いじめ・生活 規範意識 アンケート① ※2	カウンセリング・ ウィークの実施			

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職員会議		緊急対応会議の開催、事案発生時				いじめ対応チーム会議 ・来年度のまとめ ・来年度の課題検討
未然防止に向けた取組	学級・学年づくり 人間関係づくり※4 ソーシャルスキル トレーニングの実施					
早期発見に向けた取組	いじめ アンケート② ※2	カウンセリング・ ウィークの実施				

※1 職員会議：いじめ対応マニュアルを確認するとともに、指導方針や指導計画を提示し全教職員で共通理解を図る。

※2 いじめアンケート：学校の実態に応じて随時実施することを原則とする。

※3 職員研修：カウンセラー等によるカウンセリングマインド研修を実施する。

※4 学級・学年づくり/人間関係づくり：宿泊行事や学校・学年行事等を活用し、人間関係づくりを計画的に進める。